

第20回 能美市タウンミーティング（ボランティア連絡協議会）

平成30年2月19日（月）19:30～

能美市ふれあいプラザ

【司会】

ただいまから、市長と語ろうボランティア連絡協議会タウンミーティングを始めさせていただきます。まず初めに、ご参加の皆様方を代表いたしまして、ボランティア連絡協議会会長よりご挨拶をいただきたいと思えます。

【ボランティア連絡協議会会長】

きょう、タウンミーティングをするに当たり、能美市ボランティア連絡協議会に所属しているグループの方に前もってご意見、ご要望をいただきました。きょうは、その中でボランティア連絡協議会にかかわるものについて、ここで質問、ご要望をさせていただきます。

そのほかのものについては、例えば社会福祉協議会からお返事をするものもあり、市役所からというものもあったので、後で、またそれぞれの代表の方、質問された方に直接、市役所担当課、社会福祉協議会からお返事することになっています。

現在、能美市の社会福祉協議会に登録しているボランティアは約4,000人です。ボランティア連絡協議会に所属しているボランティア、いわゆるテーマ型ボランティアでは、例えば閉じこもり予防であったり読み聞かせであったり、それぞれ皆さん自分のしたいボランティアの活動をしています。また、地域で地域のためのボランティアをしている方もいます。その方たちは、主にいきいきサロンの運営のほうにかかわっています。

私は地域でのボランティアに無頓着でしたが、2年前に福祉推進員になって初めて、地域でこんなふうに変なボランティアを続けている方がいるということに気がつきました。ここにいる方で兼ねている方もいると思うのですが、全然知らない世界でした。

ご意見・ご要望の中には地域でのボランティア、地縁ボランティアにかかわるものもあります。これらについては、本当は（テーマ型ボランティアが所属している）ボランティア連絡協議会のタウンミーティングで出すのはどうかというお話も出ましたが、あえてここで質問や、ご要望をすることになりました。

皆さん、この中で2025年問題についてですが、10年ほど前から盛んに言われています。

2025年に団塊の世代がみんな75歳以上になります。私も昭和23年生まれ、団塊の世代の一人です。行政の方のお話をよく聞くと、75歳から認知症がふえて、いろんな問題が起きてくるそうです。高齢化、年をとりたくないですが、そうなってしまいます。

2025年まで、あと7年しかありません。そんな中で、私たちがどうすればいいのか、私たちの住む地域のために何ができるのか、また自分自身が自分自身のために何ができるのかということを考えていかなければならない時期に、もう来ていると思います。

2025年から10年前の2015年、3年前に、厚労省では、地域包括支援システムの構築ということを打ち出しました。それは、年をとっても、介護が必要になっても、住みなれた地域や住みなれた家で暮らし続けるためにどうすればいいのかということを考えるためのシステムです。年をとって、子供がそばにいても、自分の家に住み続けるにはどんなことが必要になるかを考えてくださいということです。もちろん介護のこと、医者に行くこと、生活を支援すること、予防することも大切なことです。そんなことを能美市は能美市としてどのようにしていくか考えるよう厚労省で言われてきました。大きな都市、例えば東京、大阪と能美市では、それぞれのシステムは違います。その地域に合ったものを、能美市は能美市として考えてくださいということです。

それから、その翌年には、「我が事・丸ごと」という他人のことを自分のこととして、地域で一体となって丸ごと考えるという地域共生社会実現のための施策が掲げられました。

多分、今は皆さん、ここへ来るときに車に乗ってきています。お昼をどこかで食べたいときは車に乗って行けます。友達にも会えます。でも80、90歳になったときは、そんなことはできないと思います。どこへも出かけられません。同世代のお友達がいても、みんな同じで、免許証返納ということになります。自分の地域でどう生きていくかということが本当に大切なことになってくると思います。

そのことをボランティア、テーマ型のボランティアの方と一緒に考えていくために、あえて地縁型のボランティアの方からの要望も含めて、皆さんとともに考えてもらいたいと思います。

本当に皆さん一人一人の問題ですし、能美市の問題です。市長さんには多分いいお答えをいただけたらと思います。行政だけの力ではどうしようもないところに来ていると私は思うので、皆さんと一緒にこのことについて考えていきたいと思っています。

【司会】

それでは次に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

(手話) 「私の名前は井出敏朗と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。」

能美市では今、手話言語条例の制定を目指してやっているのですが、私も覚えたなりの手話を少しだけ披露しました。

まずは、先日来の大雪で皆様方に大変なご不便と、そしてご迷惑をおかけしたことにおわびを申し上げ、除雪、見守りで多くの皆さんにご理解とご尽力いただきましたことに御礼を申し上げたいと思います。

今回の雪は、昭和56年以来、37年ぶりの大雪で、能美市内には県が設置する積雪計、いわゆる雪の量をはかる機械があるのですが、本庁舎のそばでは120センチを記録しました。そして、雪の降った時間帯が早朝の通勤時間帯と重なりました。雪が降って除雪車が入ったのですが、その後すぐにまた雪が降り、車がたくさん通って雪が踏み固められてしまいました。そのため除雪に手間取ってしまい、大変皆様方にご不便をおかけしてしまいました。

当初の予算では8,900万円、除雪費を計上していましたが、さらに2億円を上積みして2億8,900万円ということで過去最高額になりました。このタウンミーティングも雪で、きょうに延期されましたので、きょうは雪が降らなければいいなと祈っていました。おかげさまで快晴の夜になり、こうやって皆さんとお会いさせていただくことができました。

せっかくの機会ですので、冒頭に少し能美市のことを紹介させていただければと思います。

2月1日現在の人口が5万152人、県内第7位です。面積は84平方キロメートル、人口密度は596人です。合計特殊出生率という、生涯女性が何人のお子さんを産むかという数字は1.73であります。本来であれば男性と女性が組み合わさってお子さんが生まれるので、2以上じゃないと人口は自然減になってしまいます。ちなみに日本の平均は1.43、一番人口が多い東京は1.10です。一番人口が多い東京がこういう数字ですから日本全体的に人口が減少しているという状況です。

女性の就業率について石川県は2年前までトップでしたが、福井県に抜かれまして今は全国第2位です。そして能美市は県内第4位で、女性の皆さんに活躍をしていただいているということです。

工業製品出荷額は3,200億円です。これは県内第4位です。

そして、全国住みよさランキング、おかげさまで4年連続トップ10入りをしています。

それから、厚生労働省が認定する健康づくりという分野で、全国には約1,700の市町村がありますが能美市は何と全国第30位です。県内ではもちろんトップです。

それから、住みたい田舎というランキングでも全国1位になるなど、いろんなランキングで上位になっているというのが今の能美市です。

ただ、今後は人口が減っていきます。最大の理由は、やはり少子化です。今のところ、とあるシンクタンクの予想では2040年に4万8,800人になると言われています。そして人口が減っていただけではなくて、高齢化率、65歳以上の方々が全人口に占める割合が今は約25%ですが2040年には32%になるという能美市の将来像があります。

少しでも人口減少を少なくしていく、さらに能美市を発展させていこうということで、いろんな政策をやっています。その中で特に力を入れていこうというのがこの4本柱です。

まず1つ目は、移住・定住の促進です。人口が自然減していく状況で、ほかの市や町から能美市に移住してもらい、そして現在能美市に住んでいる方にはずっと能美市に住んでいてもらおうということです。

そして、最大の課題は人手不足と言われています。全国的にもそうですが、特に能美市は企業誘致が好調であり、そして地場産業も大変好調ですので、人手不足対策が急務となっています。今、平成30年度の能美市の予算編成をしています。移住・定住の促進と人手不足を抱き合わせた政策を、手厚くしていこうということを考えています。

それから、さらに地場産業の振興と戦略的企業誘致を推進していこうとしています。これは雇用の場の確保、それから市政を運営していくための財源の確保という意味で重要です。そして戦略的企業誘致というのは、例えば首都圏や関西圏、中京圏、大都市圏の大学を卒業した人たちが、勉強したことを能美市に帰ってきてても十分生かせる企業があるということ、そんな企業を誘致し、地場産業を振興させていこうということです。

それから、交流人口の拡大、平たく言えば観光です。北陸新幹線が金沢開業してから、その効果を能美市がどれだけの享受できているのかというと、まだまだということです。今、観光戦略会議を立ち上げて、重点的に、それに取り組んでいこうということをやっています。ただ、私は、観光を一過性で能美市に訪れた方だけを対象にするわけではなく、例えば、能美市に来た方に、能美市って「いいところだね、住んでみよう」と思ってもらえるように、それから、能美市の企業を見たときに、この会社で働いてみたいなど思ってもらえるように、そんな観光戦略を考えていきたいと思っています。

それから、教育も大事です。能美市民に、子供たちに、能美市って「いいところだな」と思ってもらう、いわゆるふるさと愛の醸成をして、能美市のために頑張ってもらう、それからグローバルな人間に育ててほしいということをやろうとしています。

こういった能美市をつくっていくためには、能美市の魅力を市民にもっと理解してもらい、そして、市外の方に能美市の魅力をどんどん発信、魅力を発掘していきます。そのためにシティプロモーションということで、いろんなことをやっています。例えば、「広報能美」を新しくしたのもそうです。今、ホームページのリニューアルをしています。それからラッピングトラックといいまして、トラックの荷台に能美市のPRをラッピングして全国で走ってもらうこともしています。

能美市の魅力というのは幾つかありますが、特に子育て環境が充実しているということで、皆様方から大変好評をいただいています。能美市の子育て政策をママフレというサイトにまとめて、ホームページ等で紹介しています。例えば、妊産婦医療費を助成したり、おむつ・ミルクの助成券を出したり、お母さんの体調が悪い場合にヘルパーさんを出したり、子育てをする人たちにお弁当をつくるような応援をしたりしています。それから、延長保育、休日保育、放課後児童クラブもあります。子育てや妊娠しているときに相談する窓口もあります。物資、心、両面にわたっているいろんなことをしています。

高齢者への対策ということで、先ほど会長のほうからもご紹介があった「我が事・丸ごと」の地域づくりというのを一生懸命やり始めています。これは健常者、高齢者、それから障害をお持ちの方、介護をされている方、皆さんに安心、安全、快適に能美市で暮らしていただけるように、自助、互助、共助、公助の4本柱をしっかりと確立していくという地域づくりであります。

地域包括支援体制推進協議体というのをづくり、有識者や関係者の方に入っていて、いろんな議論を進めています。そして、この事業は1部署だけではできません。副市長をトップにして能美市役所全庁挙げて一丸となってやっていくということで、横糸プロジェクトという名称をつけています。

先ほど申し上げたシティプロモーションについてはポスターをいろんなところで張って、能美市の魅力を発信することもしています。ポスターに出てくれている子供たちは辰口中央小学校の子供たちです。みんな本当に笑顔がすてきな子ばかりで、元気をもらいました。

【司会】

それでは、皆様方からご提案、ご意見を頂戴してまいります。

まず能美市介護を考える会からよろしく願いいたします。

【能美市介護を考える会】

今後、能美市でもますます介護する人、また、される人が多くなってくると思います。私たち能美市介護を考える会の「ほっとあんしんサロン」に参加してくれる方々に、お話を聞きますと、老老介護、認認介護、病病介護となってきたという現状です。

市として、これらの現実には何か深い配慮、または対策などの計画があるのでしょうか。また、今後、高齢者や認知症の方へのさらなる連携支援を望みます。

【井出市長】

本当にいつもいろいろとご支援をいただき、ありがとうございます。

我が家も私の父親を母親が介護してしまっていて、老老介護を目の当たりにしている一人であり、本当にうちの母親には頭が下がる思いです。

現状というのは我々も共有しており、先ほど申し上げた「我が事・丸ごと」推進事業をしっかりとやっていくということです。

そして今は、第7期のびのび高齢者プランの策定をしているところです。そういったものをしっかりと生かしていきます。

具体的に何をやっていくのかということですが、先ほど申し上げたように、まず互助の仕組みをさらに強化させていくということです。例えば、コミュニティソーシャルワーカーの方々と地域との連携をしっかりと深めていきます。それから学習会、勉強会を少し来年度やっていきたいなと思っています。

それから、障害をお持ちの方が窓口に来たときに、今まではいろんな部署をたらい回しになっていたということを知っていて、ワンストップになるよう整備をしています。まず寺井あんしん相談センターをモデルケースにしているような取り組みをしており、そこでいろんな問題を洗い出した後に順次、根上、辰口に展開していく計画にしています。

それから包括的な支援体制ということで、例えば、空き家の問題があります。我々、これまで空き家については危険空き家をどう除去しようか、あるいはどう活用していこうかということを考えていました。今回の大雪で能登の市町で、空き家の水道管が破裂してしまっても、漏水が誰もわからない状況となり、市全体、町全体が断水しました。これは大変重大な問題ということで、例えば、もう一回、空き家マップの整備をしていく必要があるのではないかと考えています。

今ほど申し上げた事業を推し進めていくことを市役所全体でサポートし、包括的にやっていきたいということが今の能美市の計画です。

【司会】

このことについて皆様方から何かご意見、ご質問はありますか。

【能美市介護を考える会】

この前、研修会で、若年性認知症に関わるボランティア団体の方と交流会がありました。私たちは大体、親の介護などある程度の年齢になった方の介護等を考えてやってきました。しかし、若年性で認知症になられた方は、50代とかまだ働き盛りで、あすからの生活に響いてくるということで、「なるほどな」と話を聞いていました。能美市でもそういう方もいると思います。家族、家庭に対しての援助を市として考えているのでしょうか。

【井出市長】

大変難しい問題だと思います。これも今後やっていきたいということで聞いていただければと思います。そのような生活困窮者の方への対応として、新しい相談員制度を設けていきたいと考えています。なかなかそのような方を十分に把握できない面がありますので、どんな方がいるのか把握できるようにしたいと思っています。一日も早く自立できるようにサポートする制度も平成30年度の中ですつくり上げていきたいと思っています。

【司会】

それでは、げんきかいからよろしく願いいたします。

【げんきかい】

まず市長さんに、ボランティアに対するイメージやお考えをお聞きしたいと思います。

また、ボランティア活動の現状や実態も、書類上だけではなく現場で見て知っていただく機会が多くなることを願っています。現在、市内各町で、さまざまな形でいきいきサロンが行われています。サロンの実態、地域の担い手として頑張っているいきいきサロンのボランティアも見て、理解していただきたいなと思います。

最後に、市の職員さんや退職された方もボランティア活動に積極的に参加いただけたらうれしいです。私たちのグループは、旧寺井町の介護ボランティア講座の修了生が立ち上げ、20年たちました。当初からお世話になった保健師さんが退職された後も一会員として活動に参加したくれ、頼もしい仲間です。こんな方がふえることを期待しています。

【井出市長】

まず、ボランティアということへの私の感想ということで、ボランティアというのはテ

一マ型とコミュニティ型があり、テーマ型というのは市内に91あります。まずその数、たくさんあるということに改めて驚きました。それから分野について、例えば高齢者、障害者の支援型から、芸能、生涯学習関連、それから環境、文化、子育て支援、国際交流、更生保護、シニア世代、健康、防犯、その他ということで、本当にいろんな分野があるのだなと思いました。それから、それぞれの皆さんが活動されている実態を見て、日々定期的に活動されていることに改めて頭が下がる思いであります。約4,000人いらっしゃるということにも驚きました。

いろんなどころから出ておいでよというお誘いを受けており、結構行っているほうかなと思いますが、まだ足りないということだと思います。もうちょっと行かないといけないなとは思っていますが、さすがに91の団体、70以上のいきいきサロンがあるのでなかなか行けそうにもありませんが、順番に順次行きたいなとは思っています。

この間も国際交流協会のバーベキューに参加しました。皆さんの前で焼きそばを焼いたら、おいしかったのか、「来年もおいでよ」と言われました。この間、ある老人会のところで踊っていたら、「あんたうまいね」と言われまして、またお誘いされました。お誘いいただいたところには、またお伺いしたいなと思っており、楽しみにしています。

それから、市の職員に実態を聞くと、皆さん積極的に出ているようですが、それももっとも出ておいでよというお誘いですので、私のほうからまた紹介をしたいと思います。

ただ、恐らく市の職員も、こんなにたくさんのボランティアがあるということを知らないのかなとも思いました。こうやっていろんなボランティアがあるということを見ると、自分はこれに興味がある、こんなことをしてみたいなと気づかされることもと思います。

それから、紹介する手段の一つとしてボランティアフェスティバルがあると思います。あれはとてもいい機会なので、例えば、市民、それから市の職員も行ってもらえるような仕掛けも必要なのではないかと思います。もう一つは、ボランティアフェスティバルにもっと多くの方に行ってもらうために、ほかのイベントと一緒に開催するといった工夫もあるのかなと思います。また相談をしながら、皆さんがいろんところで活動、活躍されていることを市民の皆さんに広く知っていただけるような、そんな仕掛けも考えていきたいと思っています。

【司会】

皆様方から何かご意見ございませんか。

【市民】

いきいきサロンを石子でしています。毎回お食事を作っているのです、どうぞお昼を食べにいらしてください。お願いいたします。

【井出市長】

はい、ありがとうございます。

【市民】

市長はいろんなところを回っていらっしゃっており、私も何回もお会いしています。ありがとうございます。

私からお願いがあります。私自身、閉じこもり予防のボランティアを始めるに当たって、旧辰口の保健師さんにとってもお世話になりました。手取り足取り教えていただいて、相談にも乗っていただきました。とてもお世話になって、今でも何かあったときには相談ができます。昔からお世話になっており、その延長なので無理なく相談ができるということがあります。

それで、市長さんが回るときに、ぜひ若い職員の方を連れて歩いていただきたい。そうすれば、その人たちがまた市民と知り合いになって、いろんな意味で助け合えると思います。今からの能美市の行政を背負う方と一緒にぜひ来ていただいて、能美市の実態、能美市に住む方がどんなことを思っているかという活動をしているかということを知っていただきたいと思います。

【司会】

それでは次に参りたいと思います。高坂・根上町緑を守る会からよろしく申し上げます。

【高坂・根上町緑を守る会】

私は、介護とはまた別の地域の史跡や祭りの保全、再生の活動をして13年になります。以前から関心のあった高齢者ボランティアポイント制度がいろんな市町村とかで採用されていますので、これはなかなかいいなと思っています。

介護保険ボランティアポイント制度とは、ボランティア活動を通じて社会に貢献するとともに、みずからの介護予防につなげるというのを目的にして、いろんなところで採用されています。どこへ行って何をするのかというと、介護施設の簡単な、資格を持っていなくてもできる、施設で行われるレクリエーションのお手伝い、配膳や食べたものの片づけ、話し相手などです。それを受け入れる施設を市で募集し認定してもらい、ボランティアをしたい人は社協に登録して活動すればいいと思います。

本来、ボランティアといったら「暇だし好きなことをしているのでしょう」といまだに

そういう風潮で見られて悩んでいる人がいるということも聞いています。施設での手伝いを1時間1ポイント100円で、1日2ポイントを上限にして最高200円といったポイント制度にして、このポイントをためて指定されたお店で利用できるようになると地域の振興にもつながるのではないかなという提案です。1年間に最高5,000円といったように身の丈に合った上限を各市町村で決めることも必要だと思います。私が調べたところは上限が5,000から8,000円で買い物ができるようです。

もう一つ、きょう集まっている皆さんは全て、いろんな分野でボランティア活動をやっています。いろんな分野の登録されているボランティア活動に参加することを、これもポイント制度にして、自分が介護を受ける身になったときに、そのポイントを使うことができるようにすると自分も家族も負担が少しでも減るという特典になります。元気なときに活動して、そして面倒を見てもらわないといけないときにそのポイントを使っていくということなんです。

この2つのポイント制度をぜひ導入していただきたいなと思いますので、提案いたします。

【井出市長】

ご提案、ありがとうございます。市のもポイント制度というものをいろいろ調べてきていますし、地域見守りネットワーク委員会の中でも議論をしていただいていると聞いています。ただ、結論はまだ出ていないようです。ボランティアというのは無償でやるべきなのではないかといった意見、いやいや、そういったものがあつたほうがより活動を促せるのではないかといったいろんなご意見があるようでして、どちらがいいのかということの結論がまだ出ていない現状です。

ただ、能美市の中には74の町会、町内会があるのですが、そのうちの一部で、お助け隊というのを結成されて、そこでポイント制度を実際に運用しているところも出てきているそうです。その成功事例もいろいろ参考にしながらポイント制度というもののあり方を今後も考えていきたいなと思ってします。

【高坂・根上町緑を守る会】

今市長さんが言ったボランティアは無償ではないかということですが、先発隊では、やっぱり金を出すのはおかしいのではないかという議論が相当あつたらしいです。それは解釈の問題で、1時間100円だということは、そこまでに行く交通費として考えれば問題ないのではないかと思います。金もうけのために行っているわけでは、決してそうではありません。

せん。その辺、皆さんにご理解していただければ払拭できるのではないかなと思いますので、再々検討をよろしく願いいたします。

【司会】

それでは4番目に移りたいと思います。護美ワーキンググループから、よろしくお願いいたします。

【護美ワーキンググループ】

私たちの活動は、家庭から出る生ごみを堆肥にして野菜をつくって、それを子供たち、小学校などいろんなところで食べていただいたりしています。農薬を使いませんし、味も見ていただきたいと思っています。こんなことを言うてはなんです、市販のものより、農薬を使わないので、虫食いはたまにあります、味もいいです。小学校へ行くと、子供たちは私たちの野菜を生で食べます。子供は正直ですね。おいしいと言ってくれます。私たちは、農薬とか化学肥料を使わないような体にいい、そういう野菜をつくって、少しでもたくさんの方に食べていただくという活動をしています。

先ほども、げんきかいのときの市長さんの回答にありましたが、私たちが活動している場所はボラフェスもありますし、寺井でフリーマーケットをしています。小学校へ行って出前講座もしています。そういう場所へ市長さんも、市の職員にも来てほしいです。どんな活動をしているかということを実際に見ていただきたいなと思います。

こんなことを言うてなんですけれども、私ら野菜を売っているときに、ボラフェスでも、ご苦労さんと言われる方がいます。ご苦労さんでもいいのですが、やっぱりそこは気持ちの問題ですので、例えば、私たちが毎年試行錯誤しながらカレーライス売っている、そういうのをちょっと食べていただきたいなと思います。このような活動を私たちがしている中で、皆さんに食べていただくことによって、また活性化にもなります。ぜひお願いしたいなと思います。

【井出市長】

本当にいつもすばらしい活動をしていただき、ありがとうございます。

循環型社会というのは大変大切で、そのあたりを少し推し進めていく政策を考えています。

ぜひカレーライスを食べに私も行きたいと思っておりますし、そのときには、たくさん食べられる若い男性を連れて一緒に味わいにいきたいと思っておりますので、ぜひお誘いいただければと思います。

【司会】

次の意見に行きたいと思います。手話サークルめだか、能美要約筆記サークルみみずくからご意見お願いいたします。

【手話サークルめだか・能美要約筆記サークルみみずく】

私は要約筆記サークルみみずく、文字で情報を伝えるサークルの会員でもあり、手話サークルめだかの会員でもあります。

先日は合同の会に参加いただき、本当にありがとうございました。授業参観に親が来てくれる、そんな喜びでした。

私たちの活動は、聴覚に障害のある方々、または難聴の方々に対して、さまざまな情報を文字で使えるという活動をしています。現在、能美市社会福祉協議会で行っている福耳ネットというのは、難聴者、聾啞者の生活教室を月1回開催しています。その中で年間行事を決めて、さまざまなことを学び合ったり楽しんだり、楽しくおしゃべりしたり、そういう活動をしています。

その中で、難聴者の方は手話ができない方もいるので、聾啞者の方から手話を教えていただく会も開催しています。

手話というのは、健常者が音声言語で話す言葉と同じで、聴覚障害者にとっては音声言語のかわりに手の動き、表情であらわすので、手話も言語ということになると思います。そこで今、石川県のほうでも先日制定され、可決しましたが、手話言語条例の制定に向けて、ぜひ能美市でもよいお返事をお待ちしています。

【井出市長】

手話言語条例、冒頭申し上げたように、今度の3月の定例議会の中で承認をいただく予定です。条例を承認していただくだけでは何も進んでいかないので、実際に手話を使って話をされている方々が、できるだけ安心、安全に暮らすにはどうしていくかということが大切だと思います。

一気ににはできないので、まず手話をお使いになられる方も市役所の窓口できちんと手続をしていただけるように、手話を使える職員をふやしていくということを考えています。そして、市役所の窓口というのは本庁舎以外にもありますので、そちらのほうは、まずはタブレットを使って画像を流して対応できるような仕組みを考えています。そのほかにも、いろんな課題があり施策をやっていかないといけないのではと思っています。そんなこともいろいろご相談しながら、そして教えていただきながら、我々も条例を制定した後に具

体的にどんなことをやっていくかということを整理していきたいと思います。

今後ともいろんなことを教えていただければなと思います。よろしく願いいたします。

【司会】

では、これで事前に聞いていたものは全て終わりました。これ以外にご提案、ご意見のある方がいらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。

【市民】

私は寺井民児フレンドサークルというボランティアの団体に所属しています。

ボランティアは本来やっぱりボランティアだと思います。ポイント制もそれはそれでわかりますが、基本はやっぱりボランティアだと私は思っています。何かもらわないと、というのは寂しいなという感じもします。

もちろん民生委員もしていたので、いきいきサロンもやっています。おかげで自分でも本当に不思議ですが、私は年寄りでも一番会合に出ているなと思います。年を自慢するわけじゃないですけども、同年代も私は自分が率先して世話をしています。私の第一信条は皆様にお世話をしてあげても、余りお世話にかからんようにというものです。お世話をできたらしていきたいなということが全てです。

市長さんも体を壊すのではないかと私は心配をしています。そこら辺は調整しながら、皆さんも余り無理を言わないようにやっていってほしいなと思います。

【司会】

そのほかご意見ある方いましたらお願いします。

【市民】

音訳ボランティアたんぼぼで活動をしています。

市長にも以前、お願いしたことです。ボランティアの皆さんの中にも、音訳ボランティアというものがどんなふうに行っているかということをご存じない方もいらっしゃると思います。市内で目の不自由な方が何人いるかというのは把握しておらず、私たちも交流がないのですが、とにかく月に1回出る広報、そして議会だよりの音訳、テープに録音をしています。広報は、表紙から最後のページの市役所の住所まで全部、一字一句漏らすことなく、中に描かれているグラフも全部、写真も紹介しています。

ただ、県内では小松、金沢などはCD化が進んでいますが、残念ながらいまだに能美市はテープに録音しています。3町分かれてカセットデッキで録音しています。CD化に向けて、今度私たちも総会の際にもう少し煮詰めていきたいとは思っています。しかし、

やはり年齢がどんどん上がってきていて、なかなかパソコンを使える人間がないので、CDにするとき、市の若い方にばばっと操作していただけたらと思います。広報などは市の財産でもありますのでお願いしたいと思います。

【井出市長】

以前にお話ししたように、もう一回、実態をきちんと調べて、あのときにも近隣がどうやっているかということも全部調べ上げていますが、改めてお伺いもしていますので、また現状と、それからどんな形でご支援できるかということを個別に報告をさせていただきます。

【市民】

本当に手弁当で、朝の9時半から夕方の5時ごろまで缶詰状態で録音していますので、その辺も大変さはあるので、ご理解いただければと思っています。

【市民】

商工女性まちづくり研究会です。市内の生鮮食品が買えるお店がない地区の町内会と連携して、生活必需品を移動販売しているグループです。

先日は、市長、同行ツアーにご参加いただきまして、ありがとうございます。それぞれ訪れた地域の皆さんもうれしそうでしたし、それから同行ツアーの参加者もうれしそうでしたし、何より移動販売を担っているメンバーが本当に喜んでいました。ありがとうございます。

ところで、市役所の職員の方の中でも何人か、私どもの協賛会員になってくださっている方がいらっしゃいます。我々の会の活動は、趣旨に賛同してくれて年間3,000円以上の会費を払ってくださる協賛会員、今は120名くらいいますが、この方たちの会費で成り立っています。ところが、お金で協賛してくださるのもありがたいのですが、現場を見てみませんか、山間部に住んで暮らしている人たちと、じかに接してみませんかというお誘いをしても、平日ですから仕事を抜けられないということです。有給をとればいいのではないと思いますが、その辺は職場によって有給をとりにくい職場もあるでしょう。ただ、そこは何らかの工夫がないといけないと思います。

今、社会福祉協議会は春まちぼかぼかプロジェクトをやっていますが、そこで出会う、市民の皆さんを見て、能美市には、自然に人として助け合いの気持ちを持った人たちがいっぱいいるなということで、いつも感激しています。市役所の方と話をするとき、少し意識が何となく違うのかなと、たまに感じてしまうことがあります。それは、このように活

動している人たちのことを知らないのではないか、接していないのではないかという気がします。

ちょっとずれますが、石川県では公務プラスワン活動といって、石川県の職員は毎月にはばかりもっているのではなく、プラス各地区で、地元でなんでもいいのでボランティア活動をしなさいといけないという取り組みがあるそうです。職員の参加率は51%で、もっと地元のことを知らないとだめだろう、少ないということで、議会で批判を受けたそうです。

能美市はどうなのかなと思っています。つまり公務プラスワン活動のようなことです。先日、小松市の主催するまちづくりのシンポジウムに出たときに、市長の挨拶で、小松市では年に一度、全ての職員に地元でどんな市民グループ、ボランティアグループの活動をやっていきますかというアンケートをとっていますと言っていました。もちろんボランティアは強制してやるものではないと思うのですが、もっと職員の方、地元のボランティアの人たちやいろんな地区で暮らしている人たちの思いにじかに接する機会をいろんな工夫をしながらもっとつくっていただけたらうれしいなということをいつも感じていますので、何か考えていただければなと思っています。

【井出市長】

私が市長に就任したときの挨拶で「私は、市民ファースト、現地、現場主義というのを唱えて当選させていただきました。市の職員さんも市役所にとどまることなく大いに市民の皆さんのところに出ていってください」という話をしました。職員の皆さんは地域に出ていっていると、私はそう思っています。実際にこういったボランティア活動ということだけではなく、例えば壮年団や女性会、そういったところにも市の職員は出ていっていると思います。それから、この間の大雪で市民除雪デーをしたときも市の職員は自分が住んでいる町内で率先して出ていたと思います。

ただ、皆さんのほうから市の職員の顔が余り見えないと言われます。その実態との乖離がどこにあるのかなというのは常日ごろ思っています。ただ、私は市の職員には努めてそんなことを言っていますし、市の職員もそれをしっかりと理解して、いろんなところに参加してくれていると思っています。

【司会】

そのほかございましたら挙手をお願いいたします。

【市民】

N o m i 国際交流協会です。市長さんにはたびたび会に顔を出していただいて、先ほど

言っていたバーベキューでの焼きそばは大好評でした。みんな大喜びでしたので、ぜひまた焼きに来てください。

きょうはお願いです、能美市には北陸先端科学技術大学院大学という大きな大学院大学があります。あと企業の外国人実習生がたくさん住んでいます。能美市には外国の方がたくさん住んでいることを、余り皆さんご存じないのではと思います。例えば、彼らは小学校で国際理解の授業に講師として行ってくれていますし、能美市民の方と交流をしたいと心から思っていて、イベントを行うとご連絡すると、最近はたくさんの方々から、交流したいからということで多くの申し込みがあります。

バーベキューで日本人、市民の人と交流するというのは本当に楽しかったようで、またやってほしいという声がたくさんあります。

また、能美市にも、学生さんや国際結婚をされた方、実習生や企業で働いている方、そういう方がたくさんいるということを知っていただきたいなと思っています。

いろいろなイベントを通して皆さんと交流ができるように考えていますが、バスや交通手段がなかなかうまく見つかりません。のみバスはルートなど本当に不便で、彼らはなかなかそれをうまく使うことができません。何か交流をさせたいと思うときには、スタッフが車で送迎をしています。ただ、それでは限界があって、一人でも多くの人たちと交流してほしい、日本人の方にもいろんな外国の方と交流してもらいたいなという思いでやっていますが、そこには縛りがあって、なかなかうまく送迎をすることができませんでした。

それで、法人の協力会員で、バスをお持ちの方をお願いをして何かイベントがあるときにはうちの車を使ってくれればいいよということでお借りしていました。それが残念ながら今はそのバスを使えなくなりました。

そこで、市のバスとか、あいているバスをお借りすることが今後できないでしょうか。個人的なことで使うのではありません。彼らにはイベントで、市民の方とたくさん交流して、能美市を好きになってもらいたいと思います。能美市がいいという方もたくさんいて、帰国されても戻ってくる人とかもいますので、その魅力を私たちもっと伝えていきたいです。そのための交通手段を、のみバスのルートを考えてもらうとか、市のあいているバスを貸し出すシステムができないかなと思っています。

【井出市長】

また焼きそば焼きにいきたいと思っています。まず、のみバスについては、タウンミーティングでいろんなお声を皆さんからいただきました。結論からいくと、平成30年度に1

年かけていろいろと実証実験をして、新しいダイヤやルート、それから手段を考えていきたいと思います。

以前、ある100人ぐらいの高齢者の方が集まる会に呼んでもらったときも「この中で、週に2回のみバスを利用されている方はいますか」と聞くと手を挙げたのは2人でした。「一度も乗ったことのない方」はほぼ全員でした。これが実態かもしれません。外国人の方、学生さんも交通弱者のお一人だとは思いますが。どれだけの需要があるのかということも1年かけてしっかりと調べて、多くの皆さんに利用していただけるような、そんなのみバスにしていきたいと思います。

それから、市が持っているバスの話です。実は近隣の市町を調べましたら市が所有しているバスをお貸ししているところはどうも少ないようです。それにはいろんな制約がありまして、例えば保険の問題もありますし、あとは国際交流協会さんだけではなくて他のボランティア団体、それから、老人会や壮年団、婦人会といった各種団体からどんどんバスを使いたいというご要望をいただいたときに、それをどなたにお貸ししていいのかということ整理していかなくてはなりません。借りていただけるようにどんなことを整理していかなければならないかということを考えていきますので、もう少々お時間をください。またお答えをさせていただきます。

【司会】

そのほかご意見のある方はいらっしゃいますか。

【のみ子育てネットワーク】

のみ子育てネットワークです。ボランティアの皆さんのご意見の中に、能美市の職員の方にできるだけ現場を見に来てほしい、その場に来て感じてほしいというお声がいっぱいあったと思います。職員の方には本務があって、いつでも行けるわけではないですし、忙しさゆえに職員の方のいらいらがたまったら本末転倒という思いもあります。来てほしいと思われている皆さんの気持ちは、多分、何か一生懸命にやっている、そのことに対するやっている人たちへの市の、行政側の応援の気持ち、私たちも何かあったら手伝うよという、そういうオーラが欲しいという、そういうことだと私は思います。

だから実際にそこへ行けなくても、相談に行ったときに一生懸命に一緒になって応える何かそういう姿勢が欲しいと思います。ボランティアは、フットワークが軽く何の縛りもないので、自由に勝手に好きなように動きます。でも行政の方は多分いろんな縛りや制度的なものもあるので動けないとは思いますが。最終的にやっていることをずっと将来つなげ

ていくためには、行政の方が理解してくださって、それを伝えていって制度化していかなければならないものは制度化する、ボランティアをお願いしなければいけないというのは次のボランティアさんをお願いするといったように、一緒になってやらなければいけないと思います。

ボランティアが頑張っているし、行政の人も頑張っています。こんなところは一緒にやろうよというときに、「よっしゃ」と言ってくれる、そういう姿勢を持ってくださればいかなと思います。

市役所の職員の方の忙しい姿も私はよく見ているので、職員の方ももっとゆとりをもって仕事ができる形をとっていただけるほうが交われるかなと、なかなか難しいですけども、理想としてはそうなのではないかなと思います。

もう一つ、子供にかかわったことです。ボランティアだけではできない、子供の育ちの応援というところが今の学校、保育園にはあると思います。ボランティアが入り込むところではないけれども、現場をもっとちゃんと見ないといけません。

子供たちが育ち得ないような、ちょっとかわいそうな現場があるなと私は感じています。簡単に能美市だけでできることではないですけども、市長さんのフットワークの軽さで小学校、保育園などを回っていただきたいと思います。私は職員の方や先生を責めているわけではありません。全体の構造として子供たちが育ち得ない現状だなということをすごく心配しています。そこら辺のことは、またゆっくりお話ししたいなと思っていますので、お願いします。

【井出市長】

まず1つ目は職員のことについて、そのあたりは今おっしゃっていただいたことを私の口から職員に伝えていきます。

2つ目は教育の問題です。能美市では教育大綱の見直しをしているところで、その見直しをするのに当たって、私も市内の小中学校を回って、現状を校長先生や教育に携わっていらっしゃる方々からいろんな話を聞く機会を得ました。愛情をどう注ごうかという話でありまして、先生方は子供が小学校に入ってきたときに親から愛情を受けているかどうかということがすぐわかるそうです。そうなってくると、物心つくころ、2歳、3歳、保育園に入るところから愛情を注いでいかななくてはならないという話です。先ほどママフレでサポートしているという話はしました。恐らく興味がある方がこういったところに参加していると思いますが、興味がない方だとか、本当に悩んでいて出てこられない方にどう我々

が手を差し伸べていけるのかということは今から考えていかななくてはならないのではないかと考えています。

それから、小学校の先生と保育園の先生との連携をもっと密にしていくことも必要なのではないか、何か一緒になって協議できるような場をつくらなくてはならないのではないかと考えています。実際に能美市の不登校のお子さんがまだいるというのは現実で、先生方も大変一生懸命やっているというのも実態として私もわかっています。そのあたりを学校の現場、保育園の現場だけではなくて、市役所、教育委員会と保育園を管轄している健康福祉部がしっかりとサポートしていくような体制を強化していきたいと思います。またいろいろと教えていただければなと思います。

【司会】

そのほかご意見ある方はいらっしゃいますか。

【市民】

実は先日の大雪のときに、私は山のほうに住んでいますが、夜中にうちの前の坂道で車が立ち往生して進めなくなりました。私がそれに気づき一緒に車を押している間に、お向かいの市役所の職員の方が出てこられて、これは進めないから除雪車が来るまで私の家に泊まっていきなさいと言って、その子を朝まで泊めてくださいました。

除雪車が来たのが昼過ぎだったので、その子は午後2時までそこのお宅で、朝御飯、昼御飯をごちそうになったぐらいだったそうです。職員の方は、地域での貢献はできていらっしゃいます。そういうところの市民目線というのは持っていると思います。

ただ、先ほどから私たちは、市とボランティアがどう共に手をつないでいくかということころなので、どういう活動をしているかということを知っていただいてからの一步目の段階についてお願いをしています。その段階をもちろん知っている方はそれで構わないのです。知っている方は、次の段階で私たちに手を差し伸べていただけたところがありましたら差し伸べていただきたいし、私たちも市の力になれることはしていきたいと思っています。そういう目線のところから、一番底辺かもしれませんが理解をしていただきたいと思っています。職員の方にはとても感謝していますが、よろしくお願いします。

【井出市長】

冒頭から同じことを申し上げますが、恐らくこれだけ91のボランティアがあるということをもっと職員の中で知っている人は少ないのではないかと考えています。もっと言えば活動の内容を知っている人は、また少ないと思いますし、まずは皆さんがこんな活動をしている

ということを広く職員に知らせるということから始めさせていただきます。職員が、こんなすばらしいことをやっているのかと思って、参加してもらえるように促していくつもりでいます。

【司会】

最後に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

きょうは貴重な時間をいただきまして、ありがとうございます。そして、たくさんお誘いもいただきました。本当にありがとうございます。

おっしゃるとおり、私も手前みそですけども、行くことで、参加することでわかることはたくさんあります。こうやって文字で見ている、こんなことなのかなと思っていても、やはり行くことで、こんな人がいるのだな、こんな方がこんな活動をしていたのだなということを改めて知る機会にもなると思います。

職員のなかなか顔が見えないというお話もたくさん聞きました。職員には、現地現場主義ということ、皆さんも率先してやってほしいということは改めて伝えていきたいと思えますし、それから私に一人に来るなということでございますので、順番に連れていきますので、そのときには快くお出迎えをいただければなと思います。

きょうはどうもありがとうございました。